

講義名	スポーツ科学演習 A (ゴルフ)			授業形態	
担当教員	坂井 隆秀	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

### 主題と概要

ゴルフは、手軽に行うことの出来るスポーツとして以前とは異なり環境が整備されてきた。そのため性別年代を問わず広く楽しめる生涯スポーツのひとつとして捉えられている。しかし皆が気持ちよくゴルフを楽しむためには、技術の習得のみならず、ルール・マナーを守ることにより、お互いが気持ちよくプレーする事や、事故などのトラブルを回避することも学ばなければならない。本授業では、ゴルフの技術、ルール、マナーなど全般的な事を理解する。そして実践のために必要なプレーヤーとして正しい知識の習得を目的とする。

### 到達目標

1. 「健康」獲得の方法を修得できるようになる。
  2. 歴史やルール、基礎技術を理解し、説明できるようになる。
  3. 基礎技術を修得し、生涯にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようになる。
- \* オフデマンドでの受講では、以上の到達目標を達成することが難しい。このため、対面授業とする。  
ただし、新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生については、その期間のみ課題学修などによって対応する。

### 提出課題

基本的なクラブのスイング方法について理解し、習得しているかレポートの提出を課します。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出された課題・レポートに対してコメントをつけて返却します。

### 評価の基準

- \* 授業実施時間数の 4 回以上欠席したものは単位を認定しない。
- \* 授業中の評価：受講態度・実技点など・・・80%
- \* 期末時の評価：レポート提出・・・20%
- \* 新型コロナウイルス感染症対策として、全ての授業がオンラインに変更された場合については、その時に詳細を伝える。

### 履修にあたっての注意・助言他

ゴルフ初心者の方を対象に授業を進めていきます。  
参加者により授業内容を変更する場合があります。  
授業前・後には必ずマスクを着用することとし、授業中については教員の指示に従うこと。

### 教科書

.使用しない。

### 参考図書


その他
-----

### 授業計画

- 第 1 回 ガイダンス 本授業の目的、進め方、評価等について
  - 第 2 回 スイングの基本 クラブを正しく握る
  - 第 3 回 スイングの基本 正しく立つ方法
  - 第 4 回 アイアンの基本 ミドルアイアンの実践
  - 第 5 回 アイアンの基本 ショートアイアンの実践
  - 第 6 回 アイアンの基本 ロングアイアンの実践
  - 第 7 回 講義 映像を用い、様々な練習方法を学習する
  - 第 8 回 ウッドの基本 1) 実践
  - 第 9 回 ウッドの基本 フェアウェーウッドの実践
  - 第 10 回 ウェッジの基本 ツッティングウェッジの実践
  - 第 11 回 ウェッジの基本 アプローチウェッジの実践
  - 第 12 回 ウェッジの基本 サンドウェッジの実践
  - 第 13 回 バッティングの基本 バッターのグリップとアドレス
  - 第 14 回 バッティングの基本 バッティングの実践
  - 第 15 回 まとめ
- \* 新型コロナウイルスの状況により、接触の恐れのある練習内容については実施できないこともある。

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	オ：カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本学では、学期上、2 単位を取得するためには、15 回の授業と、1 回の授業に対して 4 時間の予習・復習等の教室外学習が必要であるとされている。  
紳士、淑女のスポーツとされる「ゴルフ」に触れるにあたり、ルールやマナーについて事前に理解を深めておくと共に、授業計画に従って、実施内容の技術をインターネット等を活用して調べておくこと。また、技術は一度の練習で身につくものではないので、毎授業後、繰り返し反復練習をすること。

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目を受講し、目標を達成することで、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の 5 項目および、健康スポーツ科学のキャリアラムポリシーへ貢献することができる。  
業中や帰国してスポーツ実践へ取り組みの中で、明るく元気な、どのような場所でも物怖しすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆風でもたくましく立ち抜く力、つまり「ネアカ のびのび」へ「こたれず」の精神を育むことができる。また、問題点やその要因を発見し、自らが進んで取り組めるようになる。そして、他者に働きかけ、協力して課題へ取り組みむことにより、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。  
生涯にわたってスポーツと関わったり、健康の維持・増進に努めたりすることができるような知識を得て、理解することができる。  
以上は、全学部・学科の所属学生へ共通している。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

「本科目については対面授業のため、実技を中心とした授業展開となる。」ただし、「新型コロナウイルス対策として、全ての授業がオンラインに変更された場合については、オンラインによって授業を実施することになるので留意すること。」

### 実務経験の有無及び活用


### 備考
